

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 地域に自治と元気を生み出す公民館活動

4.5

2 トピックス 第47回関東甲信越静公民館研究大会(群馬大会)開催

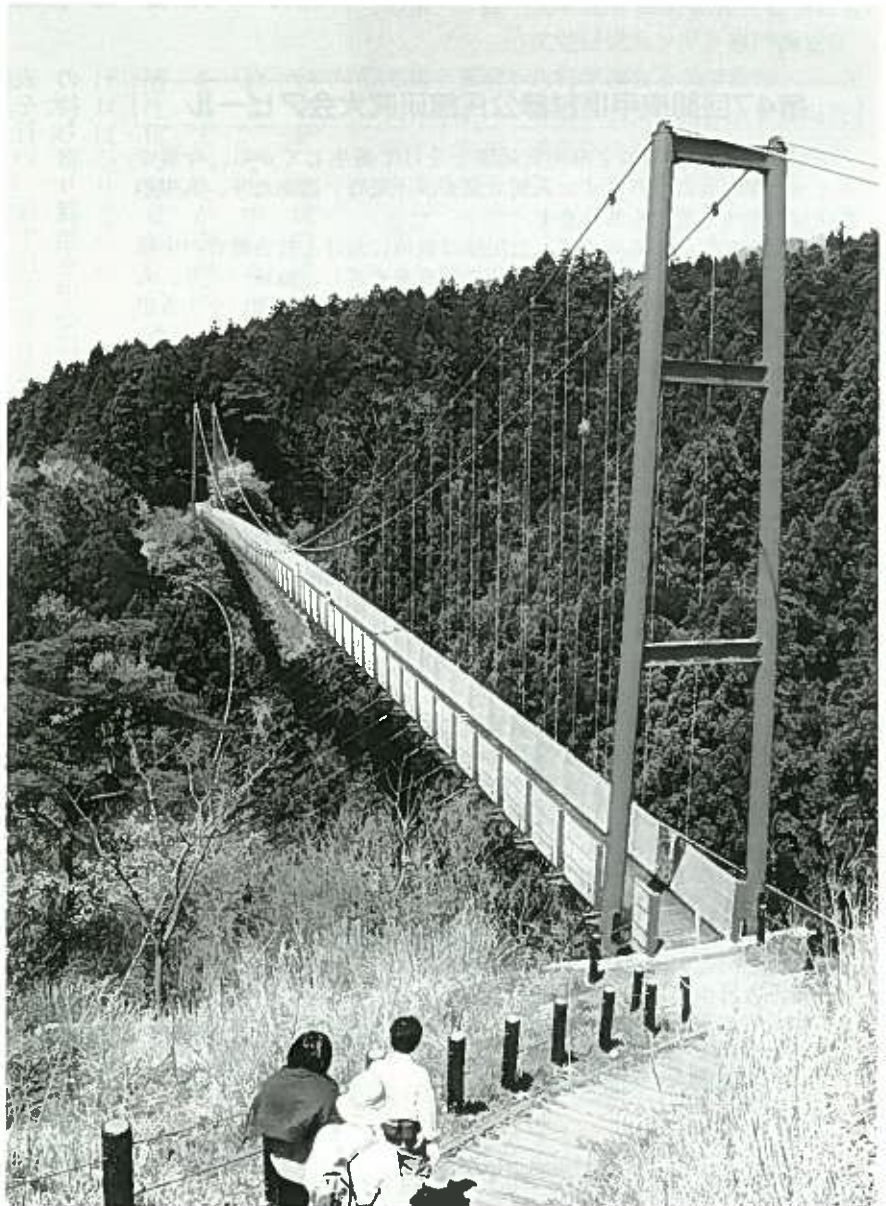
3 視点 今こそ公民館の力を

3 ひろば 出会い、ふれ合いを大切に!!

6 実践記録シリーズ 地域づくりに対する公民館のかかわり方

7 サークル交流 こたつから劇場へ(長岡市) / 静かな弥彦から(妙郷村)

7 素顔拝見 伊藤順子さん(五泉市) / 南雲 哲さん(湯沢町)



「千眼堂つり橋」燕市中央公民館

表紙解説

国上山の中腹にあり、朝日山展望台と五合庵をつなぐ長さ124mの吊橋。深紅の橋梁が緑の山に美しく映えている。



第47回関東甲信越静 公民館研究大会(群馬大会)開催

第47回関東プロ大会は、去る

8月24日(木)～25日(金)

群馬県公連主管の下、「水と

緑と詩のまち」前橋市民文化

会館を主会場に、参加総数

一、〇九〇余名が参加し、開

催された。

初日は全体会で、開会式及

び表彰式が行われた後、基調

報告・シンポジウムでは、本

大会で掲げたテーマについて

各分野・領域から選出された



松本浩二大会会長あいさつ

3人のパネラーにより意見交

換がなされ、第2日目の分科

会への流れにもつながること

となった。

その後の大会アピールは左

掲のとおり提案され、満場一

致で承認・採択された。

翌日の分科会は14分科会が

設定され、3会場に分かれて

研究協議が展開された。

本県担当分科会は、第3分

科会「ボランティアの育成と



本県担当第3分科会、池田謙治主任の発表

第47回関東甲信越静公民館研究大会アピール

公民館が昭和21年の文部次官通牒を受けて誕生してから、今年でちょうど60年目になります。人間で言えば「還暦」にあたり、人生の再出発を期する歳でもあります。

誕生以来60年の歩みの中で、公民館は地域における社会教育の中核的な施設として、一貫して住民自治の確立をめざし、地域づくり、人づくりに努めてきました。また、公民館は人々の生活に潤いや生き甲斐を与える場として、多くの地域住民に愛され、親しまれてきました。

一方、公民館を取り巻く昨今の社会的な状況は大きく変化してきています。行財政改革や市町村合併が進められている中、公民館の統廃合、職員削減、公民館運営審議会の任意設置、指定管理者制度の導入等の問題で、公民館は大きな岐路に立たされていると言っても過言ではありません。こうした状況の中で、公民館の機能が低下することは、憂慮すべき問題です。

そこで、一堂に会した私たちは、公民館誕生60年という節目を機に、公民館の原点に立ち返るとともに、新しい時代に即応した公民館の可能性について探ることを表明します。そして、私たち一人一人が今後一層公民館の振興や充実に努めることを共に誓い合い、大会参加者の総意をもって、次の点についてアピールいたします。

- 1 公民館関係職員・公民館運営審議会は、公民館機能の原点を再認識するとともに、新しい発想を生かし、地域づくり・人づくりに貢献できる公民館運営に取り組みます。
- 2 公民館は地域住民にとって必要な社会教育施設であり、公民館関係者の英知を結集することによって、市町村合併等の社会状況の変化に左右されず学習文化活動の拠点としての役割を果たし、地域住民の自立や交流を図るための各種事業を展開します。
- 3 国並びに都道府県や関係諸機関との密接な連携を図りながら、公民館活動振興のために、生活課題、地域課題等、現代的課題に対応した諸事業に積極的に取り組みます。
- 4 関東甲信越静公民館連絡協議会加盟の各都県公連にあっては、自らの財源についての現状と課題を的確に把握し、各種事業の精選と財政確立の方向性を検討するとともに、積極的な活動に努めます。

平成18年8月24日

第47回関東甲信越静公民館研究大会参加者一同

支援」で、上越市立公民館浅野裕子係長の司会進行の下、上越市立公民館池田謙治主任が具体的な事例に基づいて発表を行い、後半は参加者各自の持ち寄り課題を中心に研究

協議を展開、最後は助言者の上越教育大教授山本友和先生から総括及び今後の方向づけを行っていた。なお、初日全体会での平成18年度全国公民館優良職員表

優良職員表彰
(本県関係者一名)
優良職員表彰受賞者
藤井 史男様
(佐渡市羽茂地区公民館
前事務局長)

平成18年度全国公民館

彰では、一名の方が表彰された。(左掲のとおり)

視点

今こそ公民館の力を

佐渡市社会教育委員 藤井 史男



平成の市町村大合併も、どうにか落ち着いてきました。規模・状況の違いがあるにせよ、行政そのものは大局化されました。そこで危惧されるのが所謂「中央」以外の地域です。そこには独自の地域性や伝統・文化が生きています。ややもするとそのものも中央化され、消滅してしまいう危険性があります。

地域を残し、守る拠点として地区公民館に課せられた役割は大であります。必要課題をプログラムすることは勿論

ですが、地域の課題に視点を置き、その中心として、今何をすべきかを調査・研究し、活性化の拠点となっていかなければなりません。

スタッフはさらに専門性を体得し、地域の皆さんと一体になり、地域の火を守っていかなければなりません。

そのために、もう一度皆で地区公民館の果たす役割と重要性を見直していかねばなりません。合併の成果を十二分に発揮するために。

H O T N E W S

掲 示 板

平成18年度 第1回「月刊公民館」編集委員会開催

- 日時 平成18年9月1日(金)午後3時～
- 場所 東京・全国公民館連合会 会議室
- 協議事項
 - ・既刊号の評価について
 - ・11月号以降の特集テーマ、執筆者の選定等
 - ・平成19年度の新コーナー
 - ・その他

月刊公民館編集委員 (平成18年度) (50音順)

安東 敏子	春日部市教育委員長
稲葉 隆	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター専門調査員
◎加藤 雅晴	川村学園女子大学教授
久保木 宗一	群馬県公民館連合会事務局長
○鈴木 友夫	新潟県公民館連合会事務局長
中森 美都子	国分寺市本多公民館職員
渡部 博靖	文部科学省生涯学習政策局社会教育課ボランティア活動推進専門官
石川 正夫	全国公民館連合会事務局長

◎委員長 ○副委員長

ひろば

出会い、ふれ合いを大切に!!

村上市社会教育委員兼公民館運営審議会委員 細野とく子

「おはようございます、お久しぶりね」今日はお久し振り教室よ、細字クラブ、絵手紙クラブ等々、公民館利用者の会話で始まる中央公民館玄関口の朝の光景である。たまには、子ども達の元気な声が館内にひびく。七夕かざりやキャンプの準備、小正月のまゆ玉かざり。毎週土曜日には、越後村上わらべうたの練習会、ほたる来い、ほたる来い、ほたる来い、金持ちだ...まさに生き伝統文化継承行事である。生涯学習が叫ばれて久しいが、子どもとのふれ合い、友とのふれ合いのよき場となっている。

「晩よろしくね」は一「納涼祭」へのボランティアである。きれいに着かざった入所者、一般人も加わり踊りの輪は大きく広がった。最後に恒例の花火大会、日中降っていた雨もやみ、夜空に咲いた大輪の花に一同歓声をあげ、ひと夜を楽しんだ。

今晚は特老での仮装盆踊大会のボランティアに出かける。これからお盆にかけて、各施設での夏まつりが続く。いろいろな方たちとのふれ合いを楽しんでいるこの頃です。



から(詳細は記録集で)

生み出す公民館活動

からのメッセージ

- (4)ヤル気のある職員づくりと職員集団—専門職員
の位置づけ 公民館主事会
- (5)人・団体・活動のネットワークと地区自治
- (6)町内公民館活動—町会自治 町会福祉
- (7)適切な条件整備—社会教育行政

4 町内公民館(集落公民館)の活動と可能性

—「ごみおばさん」「町会福祉宣言」—

- (1)集落は一番身近なコミュニティ
- (2)環境・福祉・子育て・防災・文化…は、まず集
落から—ご近所の底力
- (3)集落の活動と学習の主役は住民
- (4)松本市『町内公民館活動の手びき』から

5 国際的な生涯学習の流れ

—信州社会教育と底通するもの

- (1)学習の主役は住民
- (2)学習のなかみは、趣味・生きがいから地域・地
球課題まで
- (3)学習を生活や地域づくりに生かす
- (4)住民の学習を社会教育やNPO等が支援する

参考 松本市生涯学習計画のなかの学習権

- ①学びたいことを学ぶ権利
- ②学習情報を知る権利
- ③学習を支えられる権利
- ④学んだことを生かす権利

6 学びから育つ地域自治力

—6つの力

- (1)人の力—地域自治を担う人と仲間

- (2)共有の力—地域問題・課題の共有

- (3)実践の力—解決に向かっての実践

- (4)構想の力—地区計画づくりなどの構想

- (5)住民・職員連携の力—地区住民と地区(常駐・
担当)職員の連携

- (6)行政改革の力—行政への参画・協働

7 だから今こそ公民館

—公民館で人は育ち、自治は育つ

- (1)公民館は、住民の自主的・自発的な学習の場—
学習権を保証する場
- (2)公民館は、主体性をもつ—行政の下部組織では
ない
- (3)公民館主事は住民とともに創造する—地域に公
民館主事がいる意味
- (4)学習を実践に生かすのは住民—住民自治・地域
自治力の実践
- (5)節度ある適切な条件整備—社会教育への行政の
関わり

8 新たな課題

—生涯学習・公民館・社会教育をこれからどうする

- (1)公民館をとりまく環境—新市場原理 規制緩和
構造改革 合併 指定管理者
- (2)公民館に関わる人—格差社会(階層化の進行
不安定労働の増大)
- (3)社会教育の原理—教基法改定論議(国と公共へ
の義務 教育行政のあり方)
- (4)住民主体の活動—学習権 自治・自立(自律)
地域づくり 協働 NPO

特集

第57回新潟県公民館大会基調講演概要 地域に自治と元気を —信州の公民館



元松本市南部公民館長 手塚 英男

参考

—松本市の公民館の概要

人口23万人 面積918km² 1市15村合併(昭和の大合併) 1市4村合併(05・4・1 平成の大合併)
中央公民館1 地区公民館33(以上は条例設置の市立公民館) 町内公民館(自治公民館)464館
身近な地区施設—各地区に地区体育館 地区運動広場 児童センター(館) 地区福祉ひろば 支所・出張所 他に図書館分館8

*松本市の「地区」(34地区)とは—市街地13(小学校区より小さい区域) 新市域21(旧村=おおむね小学校区)

はじめに

—いま「地域」「集落」が出番

- (1)災害(地震・豪雪)と地域
- (2)合併(自治・自立)と地域
- (3)暮らし(こども・福祉・環境…)と地域

1 信州の公民館7つの原点

—戦後の郷土づくりは公民館から

S21年「寺中構想」を積極的に受けとめた信州の公民館(はじめに住民の学習ありき)

- ①身近な町・村・地区
- ②住民主体
- ③地域課題学習
- ④地域づくり活動
- ⑤分館・自治公民館
- ⑥公民館主事
- ⑦市町村自治・地区自治(学習の自由)

2 公民館の歴史

—揺れ動き、再生する7つの原点

- (1)30年代—町村合併(昭和の大合併) 町村公民館の存廃
4つの公民館像(枚方・国立・三多摩・下伊那)
- (2)40年代—高度経済成長・地域開発 公民館を支えた青年団・婦人会の衰退
新たな地域課題 住民運動
- (3)50年代—行革の影響 社会教育終焉論
公民館活動の模索 まち・むらおこし
- (4)60年代—生涯学習計画 地域創造型公民館
～平成 平成の大合併

3 松本の公民館の到達点

—福祉と生涯学習は身近な地区自治で

—00年1月『松本市公民館活動史』から—

- (1)身近な地区公共施設の整備—(身近な地区公民館か広域的コミュニティセンターか)
公民館 体育館 運動広場 図書館分館
児童館 福祉ひろば 支所・出張所
- (2)住民参加—公運審 専門委員会 生涯学習計画づくり 公民館研究集会
- (3)地域課題の学習—人権・環境・福祉・子育て・地区おこし…

実践記録

102

シリーズ

第57回新潟県公民館大会
事例報告1から



糸魚川市上早川地区公民館 主事 平内 芳美

地域づくりに対する公民館のかかわり方

1. はじめに ～糸魚川市、上早川地区の概要～ (省略)

2. コミュニティ活動をはじめとする様々な地域づくり

自然豊かな地域ですが、65歳以上の人口が占める割合は40%となっており、少子高齢化、過疎化の事態は近年ますます深刻になっています。しかし、この地域ならではの特色ある地域づくり活動が徐々に展開されており、今回の大会テーマ「地域づくりに対する公民館のかかわり方」に沿って当地区の実態を紹介します。

(1) 上早川コミュニティ推進協議会と公民館

昭和60年4月、上早川コミュニティ推進協議会が設立されましたが、それよりも早く一集落、一地区がすでに活動を始めており、いわゆる地域おこし、地域づくりの動きは他に先駆けたものがありました。

時はほぼ同じく昭和61年4月、旧糸魚川市内の10地区公民館が住民主導型公民館として生まれ変わり、「集まる場」「学ぶ場」として、地域の特色を生かした公民館運営がそれぞれの地域に任せられました。住民主導型公民館とは、地区公民館の管理や事業運営等を、当該地域が行うというもので、公民館長をはじめとする職員を地区公民館管理運営委員会が推薦し、推薦された人は市の非常勤特別職などとして委嘱を受け、その職員が中心となって地域の実情に合った公民館運営を行うというシステムです。職員は非常勤の館長の他、臨時職員として主事、副主事が各1名ずつ配置されており、原則として当該地域に住んでいる人の中から推薦され、委嘱されます。

さて、その当時の公民館3大事業といえば運動会、敬老会、文化祭で、運動会では青年サークルが企画運営を一手に引き受け、行まみれになってグラウンドを走って回っていた姿を今でも鮮明に覚えています。また、敬老会では、皆さんから楽しんでいただけるよう支館ごとに手作りのステージを。文化祭ではその年のテーマを決め、地域・学校・公民館が一体となって開催し、回を重ねると50回となりました。そこには地域を支えてくれる人がいるからだと思います。

[上早川コミュニティ推進協議会のあゆみ] (省略)

コミュニティ活動といっても設立当初はなかなか理解を得られない状況であり、先ずは自分たちができることを、と「花いっぱい運動」に取り組むことから活動が始まりました。行政と連携しながら、プランター、花の苗を提供してもらい、小学生、中学生と一緒に花植えをし、地域の一歩目に止まる場所に並べられました。地域の人ほもとより、温泉へ来てくださる人の目を引き、そのうちに通りがかりの人が草をとってくれたり、咲き終えた花を摘んでくれたりして、みんなに管理され、季節ごとに次々と花が咲いていました。

今でも県道沿いや、焼山の里ふれあいセンターでの美化活動は続いています。

(2) 上早川文化事業と公民館

今から十数年前、総代会、コミュニティ協議会、地区青少年健全育成協議会、地区社会福祉協議会、そして公民館の5団体が共働して、地域の活性化をテーマにした文化講演会を開催していました。ある年の講師としてお迎えした先生が、外から見た上早川の自然のすばらしさをお話され、自分もこの先このような所で住んでみたい、と話を結びました。地元参加者全員が、改めて上早川の自然のすばらしさを再認識した内容でした。

故年後、その話が現実のものとなり、その先生が当地へ転居してきました。そして、地域に文化を芽生えさせ、地域外の人との交流を目的とする文化事業を行いたいと、公民館へ相談があり、上早川文化事業実行委員会が立ち上がりました。今から10年前のことです。実行委員会は、これまで「切り絵・影絵展」「真実を描いた絵画展」「コンサートやシンポジウム」など多彩な内容で事業を展開し、地域内外の多くの方に足を運んでいたと思います。

会場となっているホク自習館へ何回も訪れた方がおっしゃるには、ここは雨が降っていてもよし、曇っていても、雲が上がりるとすばらしい景色が見えそうでまた来たくなり、また真つ蒼な空を見ると別世界にいるようだと感じていました。

また、親子で会場へ来られた方が、この時期になるのがすごく楽しみだ、と春の間催をいつも持っていてくださいます。実行委員の人たちも一緒になって感動できた場面でもあったようです。

ただ、地域の方の関心がいままひとつなのが残念ですが、10年目を迎えた今年は、この春から「いなか弁当」の試作や試食会、山菜の調理方法や保存方法など、独自の研究を進めている取り組みの紹介など、足元に目を向けた事業が計画されています。つい先日の暮女公演が行われた際にも、山菜の個々の試食会をして意見交換をしました。この秋の事業実

施に向けて、作付け計画なども着々と進められており、今後、みんなに視まれる上早川の特産が生まれることを願っています。

(3) 湯川内の地域づくり

また少し角度を変え、湯川内という地区の活動を紹介します。

この地区は、現在世帯数55戸で、上早川地区の南端に位置しています。

〔発〕 尾～昭和51年5月

糸魚川市社会福祉協議会より「地域づくり社会づくりから子どもたちの健全育成」の指定事業を受け、人と人との心のふれあいを推進し、明るい住みよい地域づくりを目的に活動展開をする。

(湯川内へき地保存所、上早川小学校 湯川内分校を中心に)

・事業内容…集落内の花植え

アジサイロードの草刈り

キャンプ場の管理

夏祭り(お神輿、魚のつかみ取り大会、仮装盆踊り大会)

子ども会(昔初め大会)

賽(サイ)の神

中でもお盆の15日に行われる子ども神輿は人気で、神輿が集落を回ってくと地区内の人がかこぞって道路沿いへ出て、みんなで楽しんでいきます。また、川原での魚のつかみ取り大会は長い歴史の中で、常に根強い人気を集めており、お盆に故郷へ帰省した人も、大いに楽しみにしていると感じています。

ちなみに推進委員会は、昭和57年には「花いっぱい部門」、昭和58年には「地域づくり部門」で、あしたの新潟県を創る運動協会などが主催する新潟県自治活動賞を受賞し、さらに平成4年には会の代表が、(財)あしたの日本を創る協会などが主催するふるさとづくり賞の内閣総理大臣賞(個人賞)を受賞するなど、活動が高く評価されています。

(4) 西山の地域づくり

さらにもう一つの地域づくりをご紹介します。

世帯数約60戸の西山という地区では、平成3年3月に廃校となった西山小学校を宿泊まりできる施設として改修し、その利活用を中心とした独自のコミュニティ活動を展開しています。

メインイベントである「鳥帽子の里 山茶祭り」は、今年13回目を数え、110名ものお客さんを迎える大イベントに成長しました。県内はもとより、関東方面など遠方からもお出でいただき、この地区のみならず上早川全体の活性化につながっています。

公民館も参加申し込み先として一環を担っており、電話で申し込みされるお客様の、ぜひ行きたいという気持ちや自然と伝わって来るのが何とも言えません。リピーターも多くうれしい限りですが、定員に達してしまっても所らざるを得ないこともあり、心苦しい思いをするほどです。

〔六左衛門湯の道〕をたどり (省略)

(5) スポーツや音楽を通じた地域づくり

スポーツを通じた地域づくりという面でも、上早川には2つの大きな事業が生まれ育っています。一つは、「早川縦断駅伝大会」です。これは、早川沿いを若いも若きもタスキをつないで走ってみよう！と昭和53年の第1回大会以来28年間続いており、役員よりも走ったほうが多いという人も多く、今では役員の選出に苦慮しながらも熱く続いています。

もう一つは早川スキークラブが主催するスキー大会で、その歴史は遠く大正時代にまでさかのぼり、70回を超える長い歴史を誇っています。近年は糸魚川市の市民スキー大会のクロスカントリー部門としても開催されており、どんな豪雪でも大会運営を続けています。

この二つの事業については上早川、下早川との合同運営をしていますので、早川谷の歴史のある事業となっています。

また、つい最近、今までになかった音楽というジャンルの活動として、昨年からは新しいサークル、「器楽アンサンブル」が、上早川コミュニティ推進協議会を中心に誕生いたしました。時代の流れの中で落ちていくもの、消えつつあるものが多い中で芽生えたサークルにほのほとした心持になります。ステキなメロディをいつまでも奏でてくれることを願ってやみません。



3. おわりに (省略)

こたつから劇場へ

劇団わるだくみ

新潟市の人口約八十万、劇団数二十に比べ、長岡市約二十八万人、劇団数：四、マジか？マジなんです。他市と比べて劇団が少ない。観に来る人ももちろん少ない。まして舞台に立とうとする人なんて：でも人口比率からすると

もつと演劇に興味のある人がいてもおかしくないと思うんです。何とかしないと。そんな思いで劇団を運営して三年。年二回のペースで公演を行っています。皆芝居を通して自分の魅力を上げよ



う、長岡を面白くしようと、中央公民館で週二回の稽古を頑張っています。

如何にして新潟の皆さんを「こたつ」から引っ張り出すか：。私達の「企み」は続きます。

長岡市 劇団わるだくみ 主宰 高橋 直也 記



静かな弥彦から

キルトぶらさぎ

毎週金曜日、静かな公民館の一室が三十人ほどの女性の賑やかな笑い声でいっぱいになります。布と手作りが好きな仲間が集まって、キルトの製作を中心に活動しています。



何より和やかさを大切に、村内外からの参加者と、年二回の教室主催の作品展、講習会の開催。今では障害者の方々の参加も加わり、自分達の好きなことを通して、少しずつ交流の場を持てるようになったと感じています。

教室参加者、展示会等の来場者の方々とお会いできる機会がとても嬉しく、「ぶらさぎ」(多くの人が集まる広場)の意味をかみしめています。

今後は、教室や展示会等の情報が相互に利用できるシステムを期待しています。

弥彦村 キルトぶらさぎ 代表 亀倉 朱実 記

村松町公民館から、今年の1月1日に新五泉市村松公民館となった図書室で伊藤さんは毎日、10月1日から開始される五泉市図書館とのオンライン化に向けて、本の整理・登録の仕事をしています。

彼女を一言で表現すると「元気」そのもの！役所に入った頃の彼女を知る自分としては…昔はもっと(もう少し)可愛いらしくて、男性ファンも結構いたはずが、今では

五泉市村松公民館・図書室の元気印

主査 伊藤 順子さん



老若男女問わず、彼女の兄弟分や舎弟？でも、それは彼女の人気が厚く、天性の姉御肌から来るものであり、決して彼女の本意ではありません。だから傍で見ているのは、「ジュン たまには断れよ」ってこと。

みんなからのお願いや誘いに対して絶対に彼女は首を横に振らない。もう、自分達も歳だから余り無理しないで3回に1回とは言わないけど、5回に1回は断ることを覚えようね。

(五泉市村松公民館事業係主幹 K 記)

素顔拝見

弱冠26歳の独身です。好みの女性は元気で明るい娘だそうです。趣味は映画鑑賞、アウトドアで、特技はバドミントンとのこと。

当町職員に採用されて配属されたのが公民館です。今年の4月で3年目に入りました。職場では「さとちゃん」の愛称で親しまれています。館報「ゆきぐに」の編集、発行から公民館事業の企画運営、ゲートボールの事務局等々何でもこな

湯沢町教育委員会 社会教育課

主事 南雲 哲さん



し、先輩方の絶大な信頼を得ています。とはいえ、たまには意見が分かれることもありますが、いつも笑顔で接し、キュートな前歯に一層磨きがかかります。多忙な毎日ではありますが、スリムな体にあまり負担をかけないように、常に自身の健康管理をしっかりやってほしいと願う者です。

(湯沢町社会教育課長・公民館長 並木 進 記)

第57回県公民館大会の折、会場ロビーに参加者向けに置かれた冊子です。また中越大震災回顧の貴重な冊子でもあります。内容は、◆復興の誓い、10・23新潟県中越大震災小千谷復興祈念式典より◆地域の絆◆震災に立ち向かった地域◆コミュニティ◆家族の絆◆支えあい、助け合う心があった◆感謝◆支えてくれた多くの人の力があつた◆等からの4部構成となっておりです。



録集が読み手の心を打ちます。とくにその中から町内会長Mさんのレポートは「今思うと、この時ほど人間の結集力、総力のすごさ、素晴らしさを強く感じ、ましてききとしたり行動力、思いやる心、町内の人たちの底力

を改めて感じました。(中略)小・中学生など子どもたちが、最初の頃は不安そうに元気もなく、避難所の所々に数人ずつ集まり、何か寂しそに過ごしていましたが、いつ頃からか高学年・中学生が中心に自主学習が始まり、自分たちなりに地震に負けない気持ちを生懸命持とうと、「地震なんかには負けないぞ」「みんなで団結してガンバロー」などのポスターを作り、あちこちに貼る行動を始めたのです。みんなを勇気づけてくれました。胸が熱くなる思いで読ませていただきました。

恵贈資料紹介

絆 明日に向かって
立ち上げられ！ 団結小千谷実行委員会

Net work

平成18年度 中越地区公民館職員研修会 開催案内

- 趣旨 (省略)
- 主題 「新しい時代が求める公民館活動」
- 主催 中越地区公民館連絡協議会
- 共催 新潟県公民館連合会
- 主管 中越地区公民館連絡協議会主事部会・長岡市中央公民館(中之島公民館、越路公民館、三島公民館、山古志公民館、小国公民館、和島公民館、寺泊公民館、柳尾公民館、与板公民館)
- 期日 平成18年10月5日(木曜日)
- 会場 長岡市中之島文化センター
長岡市中之島3807番地3
電話(0258)66-1310、FAX(0258)66-1003
- 日程

9:30 10:00 10:20 10:30 12:00 13:00 15:00 15:45 16:00

受付	開会式	オリエンテーション	講演	昼食	分科会	全体式	閉会式
----	-----	-----------	----	----	-----	-----	-----

- 開会式
主催者挨拶 中越地区公民館連絡協議会長 大関 重雄
来賓祝辞 中越教育事務所 社会教育課長 松井 剛之輔 様
新潟県公民館連合会会長 三保 恵美子 様
歓迎の言葉 長岡市教育委員会教育長 笠輪 春彦

- 講演
演題 「時代が求める公民館の役割」
講師 新潟市音楽文化会館館長 今井 昭友 様
(元新潟県公民館連合会会長)

講師プロフィール
昭和18年生まれ
平成16年3月、新潟市中央公民館退職(館長職8年)

- 分科会
第1分科会テーマ「新しい時代が求める公民館活動」
地域社会との連携～地域づくりに公民館はどう関わるか～
第2分科会テーマ「市町村合併後の公民館活動」
中央公民館と地区公民館の新しい関係
第3分科会テーマ「公民館事業の活性化」
公民館事業マンネリ化防止策を考える
第4分科会テーマ「公民館の管理運営」
指定管理者制度の導入、公民館事業の有料化(受益者負担)

- 全体会 司会進行
- 閉会式 閉会挨拶
長岡市中之島公民館長 高森 精二

- 参加費 一人500円(資料代)(当日市町村単位で受付に納入してください。)
- 申込方法 平成18年9月20日(水)までに別紙申込書に必要事項を記入のうえ、次の場所に申し込んでください。
〒910-0072 長岡市柳原町2番地1
長岡市中央公民館「中越地区公民館職員研修会」係(郵便、FAX、E-mailいずれも可)
電話0258-32-0437 FAX0258-32-0561
E-mail cho-kou@city.nagaoka.niigata.jp
(担当:風間)

- その他 昼食にお弁当(800円お茶付)をご希望の方は申込書に記入してください。代金は、当日市町村単位で納入してください。

event information



あ と が き
第47回関プロ大会は、糸魚川市から全面的なご支援(25名)を得て、43名の方から参加いただき、ほっと一安心いたしました。
来年度の大大会は、隣県栃木県宇都宮市で全国研究会を兼ねての開催ですので、より多くの参加を望みたいものです。(鈴木 記)